機械器具　16　体温計
管理医療機器　電子体温計（JMDN コード：14032010）

テルモ電子体温計Ｃ２３２

【警 告】

（1） 子供だけで使わせないこと。
［本品の先端部をかみ切って飲み込んだり、けがをする可能性がある。］

【禁忌・禁止】

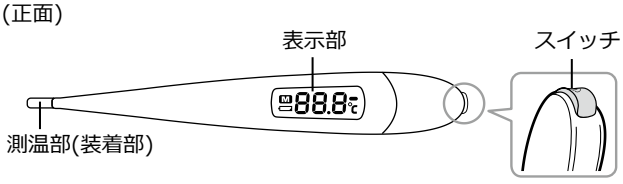
（1） 引火性のある環境では使用しないこと。
［引火又は爆発の誘因となる可能性がある。］

【形状・構造及び原理等】

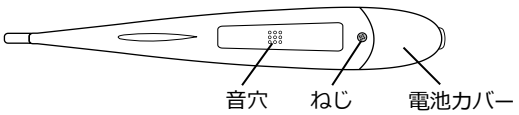
＜構造図＞

●本体

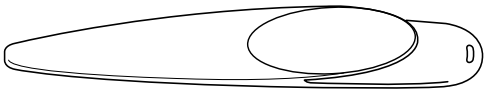
(正面)



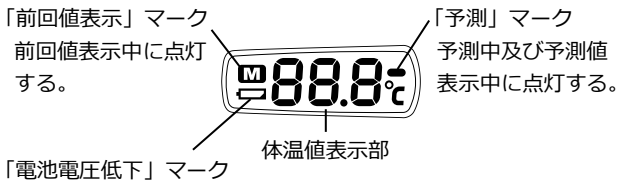
(背面)



●収納ケース



●表示部　※説明のため、全点灯で表示



外観寸法：長さ 129mm×幅 17.6mm×厚さ 12.6mm
質　　量：約 12.5ｇ（電池含む）
付 属 品：収納ケース

［機器の分類］

電撃に対する保護の形式による分類：内部電源機器
電撃に対する保護の程度による装着部の分類：BF 形装着部

［電気的定格］

電　　源：アルカリマンガン電池（LR41）２個（交換可）
電　　圧：DC3.0V
消費電力：約 3.0mW

＜原理＞

本品は、サーミスタの抵抗変化を利用して温度を検出し、検温開始から約4分30秒までは予測値、それ以降は実測値の最高値をデジタルで表示する。検温中は、平均約20秒（おおよそ16～25秒）で予測が成立したことを知らせるブザーが鳴る。ブザー聞き逃し低減のため、予測成立後約60秒間は間歇的に鳴動する。検温をそのまま続けると検温開始から約10分後に実測検温終了のブザーが鳴る。
なお、本品をワキ下から取り出すことによる温度低下をサーミスタで検知するよう設計されており、予測成立後に本品の取り出しが検知されると、予測成立ブザーは停止する。

［付帯機能］

初期動作確認機能(告知機能)	：電源ON時に所定の表示をし、検温可能を告知する。
予測成立ブザー機能(告知機能)	：予測成立時にブザーが鳴動する。
定刻ブザー機能(告知機能)	：検温開始から約10分後にブザーが鳴動する。
エラー表示機能(告知機能)	：検温不良時、ブザーが鳴動し、表示部に「E」を表示する。
使用温度範囲外表示機能(告知機能)	：使用周囲温度が、使用条件の範囲外の場合は、表示部に「Hi」又は「Lo」のマークを表示する。
体温値点滅表示機能(告知機能)	：体温計の測温部が大きくずれた場合等で正常な予測検温が行われなかった際は、その旨を体温値の点滅で告知する。
動作不能告知表示機能(告知機能)	：体温計が動作異常を検知した場合は、「EE」のマークを表示する。
電源入切機能(電源制御機能)	：スイッチを押すごとに電源がON／OFFする。
オートパワーオフ機能(自動電源遮断機能)	：検温せずに所定の時間放置すると電源が遮断する。また、検温終了後所定の時間放置すると電源が遮断する。

取扱説明書を必ずご参照ください。

[仕様に係る事項]

·最大許容誤差(温度指示特性)：±0.1℃以内(標準温度計に対して)
·測温範囲：32.0～42.0℃
·使用条件：周囲温度　10～40℃
　　相対湿度　30～85%RH（ただし、結露なきこと）
　　気圧　700～1060hPa

【使用目的又は効果】

＜使用目的＞

測温部を部位に接触させて、腋窩の体温を測定し、最高温度を保持しデジタル表示すること。

【使用方法等】

[測定方法]

1. スイッチを押して電源を入れる。（前回値を表示した後、検温開始が可能である旨を表す「88.8」を表示する。）
2. ワキ下中央に体温計の先端（測温部）をあてる。
3. 体温計はななめ下から 30°くらいの角度で、押し上げるようにはさみ、ワキをしっかりしめる。
4. ブザーを聞いてから体温計を取り出す。
   ・予測検温
   検温開始後、平均約 20 秒（おおよそ 16～25 秒）で予測成立を知らせるブザーが鳴るので取り出す（「予測」マークが点灯している）。(取り出さなかった場合は約 60 秒間、間歇的にブザーが鳴る。)
   ・実測検温
   予測成立を知らせるブザー（約 60 秒間）の後、検温開始から約 10 分後のブザーが鳴るまで待って取り出す（「予測」マークが消えている）。より厳密な体温を測定するには、実測検温を行う。
5. スイッチを押して（1 秒以上）電源を切る（電源を切り忘れても約 3 分後に自動的に電源が切れる）。

[電池の取り替えかた]

1. 小型のプラスドライバー（サイズ:0 番用）でねじを外し、電池カバーを外す。
2. つまようじ等で電池を取り出す。
3. 新しい電池を入れる。（２個同時交換）
4. 電池カバーを本体にはめ、ねじをしめる。
5. スイッチを入れ、正しく表示されることを確認する。

＜使用方法等に関連する使用上の注意＞

(1) 体温は、時間帯、気温、睡眠、感情等の要因で常に変動し、個人差、年齢等でも違いが見られるため、平熱をあらかじめ検温しておくこと。
(2) 飲食後、運動後、入浴後、外出から帰宅後はすぐに検温せず、30 分ほど待ってから測定すること。[正確な検温ができないことがある。]
(3) ワキ下に汗をかいている場合は、タオル等で汗を拭き取ること。[汗をかいたまま測定すると、ワキ下が冷えているために正確な検温ができない。]
(4) 電源を入れるときや検温開始前に体温計の先端（測温部）に触れないこと。[正確な検温ができないことがある。]
(5) 体温計を真横からはさまないこと。[先端（測温部）がワキ下中央に正しくあたらないために、正確な検温ができない。]
(6) 検温中は、体を動かしたり、体温計を動かしたりしないこと。[体温計の先端(測温部)が正しい位置からずれると、正確な検温ができないことがある。]
(7) ワキ下に強く密着させて測定すること。[お年寄り、やせている方等で、ワキ下の密着が弱い場合は、正確な検温ができない可能性がある。]
(8) くり返し検温するときは、少し時間をおくなど体温計の先端（測温部）を冷ましてから検温すること。[そのまま測定すると、検温値が高くなることがある。]
(9) 取り出してから表示値が変化したときは、変化後の（固定した）値を読み取ること。[予測演算が終了するまで若干の時間がかかるため。]
(10) 数値を読み取る際は、体温計の先端（測温部）に触れないこと。[表示が変化することがある。]
(11) 表示が点滅するときは、最初から検温をやりなおすこと。[1 回目の電子音が鳴る前に、体温計の位置がずれた可能性がある。]
(12) 指定以外の電池を使用しないこと。[故障の原因となる。]
(13) 電池の交換は同じ種類の新品の電池を２個同時に行うこと。[古い電池を混ぜて使用すると電池が発熱し、故障の原因となる。]
(14) 外したねじ、電池、電池カバーは子供の手の届かないところに置くこと。[誤飲の可能性がある。]
(15) 電池の電解液が、目、皮膚、衣服に付着したときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けること。[失明やけがのおそれがある。]
(16) 電池を取り出す際は、つまようじ等を使い、金属製の棒等は使用しないこと。[故障の原因となる。]
(17) 電池を取り出す際は、内部の部品に触れたり、引っ張ったりしないこと。[故障の原因となる。]
(18) 電池のプラス面を上にして入れること。[プラス、マイナスの向きを間違えて入れると故障の原因となる。]
(19) 電池カバーと本体との間に異物等が挟まらないように注意すること。[故障の原因となる。]
(20) 電池や電池カバーを無理な力で押し込まないこと。[本体が破損する原因となる。]
(21) 電池カバーを本体にはめる際は、ねじを強くしめすぎないこと。[本体が破損する原因となる。]
(22) 電池を重ねて置かないこと。[発熱、発火の原因となる。]
(23) 電池を火の中に投げ込まないこと。
(24) 長期間使用しない場合は、電池は取り外して保管すること。
(25) 電池の使い方を誤ると、電池が漏液、発熱、破裂したり、けがや本体の故障の原因となるおそれがある。

【使用上の注意】

＜重要な基本的注意＞

（1） 人の体温測定以外に使用しないこと。[けがの可能性がある。誤作動や故障の原因となる。]
（2） 測定結果の自己診断、治療は行わないこと。[自己診断、治療は危険である。]
（3） 取扱説明書を確認の上、使用すること。
（4） ワキ下以外（口中等）で使用しないこと。[誤飲やけがの可能性がある。正確な検温ができない。]
（5） 使用の前に、外観に破損等がないことを確認し、異常が認められた場合は使用しないこと。[検温値の異常や、けがの可能性がある。]
（6） 破損したものは使用しないこと。[検温値の異常や、けがの可能性がある。]
（7） 強くかまない、踏まない、落とさない、強いショックを与えない、曲げない、引っ張らないこと。[破損や故障の原因となる。]
（8） 強い静電気や電磁波、磁石等に近づけたり、近くで携帯電話を使用しないこと。[誤作動や故障の原因となる。]

（9）本品に液体や異物が入らないように注意すること。[液体や異物が入ると内部の電子部品に影響を与え、劣化や損傷により故障の原因（検温値の異常を含む）となる。]
（10）本品は気密構造ではないため、活性ガス（消毒用ガスも含む）環境や多湿環境等で使用、放置しないこと。[内部の電子部品に影響を与え、劣化や損傷により故障の原因となる。]
（11）使用条件下であっても、急激な温度変化を生じさせる使用はしないこと。[装置内部での結露発生により、損傷や経時劣化が生じ、本品が有する機能や性能が得られない可能性がある。]
（12）本品は、振動、塵埃、噴霧、腐食性ガス等の発生する場所で使用しないこと。[本品が有する機能や性能が得られず、また、故障の原因となる。]
（13）分解、修理、改造は行わないこと。[破損や故障の原因となる。]
（14）本品の表示部を強く押えたり、ボールペンやツメ等、硬いもの、先の尖ったものでつついたりしないこと。[表示部の破損や故障の原因となる可能性がある。]
（15）日光や紫外線等の強い光があたる場所に保管したり、長時間放置しないこと。[変色、劣化や故障の原因となる。]
（16）収納ケースに収める際は、乾いた布等で水気を拭き取ること。[本品の防水構造は先端(測温部)から 5cm までのため、水気がついたまま収納ケースに保管すると故障の原因となる。]

【保管方法及び有効期間等】

＜保管方法＞

暖房器具のそば、車の中、日光のあたるところ、ほこりの多いところ、湿気の多いところを避けて保管すること。
保管条件：周囲温度　-10～50℃
　　相対湿度　30～95%RH (ただし、結露なきこと)
　　気　　圧　700～1060hPa

[電池について]

・約5000回（予測検温）使用することができる。実測検温では、約300回連続測定できる。
・付属の電池（本体に装着済み）は、お試し用であり、寿命が短い場合がある。
・使用済みの電池や体温計を廃棄する際は、各自治体のルールに従って適切に廃棄すること。

＜耐用期間＞

耐用期間：4.5 年（自己認証による）

【保守・点検に係る事項】

[保守点検上の注意]

(1) しばらく使用しなかったときは、使用前に必ず作動（電源が入ること、「電池電圧低下」マークが点灯していないことなど）を確認してから使用すること。
(2) 本品の汚れがひどい場合は、布等を水又はぬるま湯に浸し、よくしぼってから音穴をさけて拭き取ること。
(3) 水洗いをしないこと。[本品の防水構造は先端(測温部)から 5cm までのため、故障、測定精度低下の原因となる。]
(4) シンナー等の有機溶剤、ポビドンヨードでは拭かないこと。使用可能な消毒液（成分名）例は以下のとおりである。なお、用法及び用量はその製品の電子添文に従うこと。
クロルヘキシジングルコン酸塩／ベンザルコニウム塩化物
[有機溶剤や使用可能な消毒液以外を使用した場合、本品の破損、変色や故障の原因となる。ポビドンヨードで拭くと色素が付着することがある。]
(5) 本品は消毒液等に水没させないこと。消毒する際は、先端(測温部)のみを必要な時間だけ浸し、その他の部分は脱脂綿等で拭くこと。[本品の防水構造は先端(測温部)から 5cm までのため、故障の原因となる。消毒に必要な時間については消毒液の電子添文を参照すること。]
(6) ドライヤー等を使用して乾燥させないこと。[本品が破損や故障する可能性がある。]
(7) 熱湯消毒しないこと。[故障の原因となる。]
(8) クレゾールは使用しないこと。[故障の原因となる。]
(9) 超音波洗浄はしないこと。[故障の原因となる。]

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：テルモ株式会社
電 話 番 号：0120-008-178 テルモ・コールセンター